

NJPPPセミナー
2020年2月5日(水)

東京栄養サミット2020 —企業の参画について—

外務省
国際協力局 国際保健政策室
稲岡 恵美

- ※ 本資料は、東京栄養サミット2020に向けて皆様の御理解が進むよう、一部内容について演者の見解を含めた記載となっております。
また、特にコミットメントガイド引用部分等、定訳ではございませんのでご留意下さい。

説明の流れ

1. 栄養分野の国際的な動向
2. 東京栄養サミット2020
 - ① 目的とテーマ
 - ② コミットメントとは
3. 民間セクターのサミットへの貢献
 - ① 栄養課題解決に向けた企業への期待
 - ② コミットメントの方向性(サミットのテーマ別)
 - ③ 今後のスケジュール

栄養改善に関連する主な国際的目標

WHO Global Monitoring Framework on NCDs <WHO> 2011年

- 目標4: 食塩摂取量を30%減少
- 目標6: 高血圧の25%減少
- 目標7: 糖尿病と肥満の増加阻止

持続可能な開発目標 (SDGs) <国連総会> 2015年

2 飢餓を
ゼロに



目標2: 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

2.1 : 2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。

2.2 : 5歳未満の子どもの発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。

Global Nutrition Targets 2025 <WHO> 2014年

2025年までに国際社会が
目指す国際栄養目標



5歳未満の
発育阻害児数を
40%減らす



子どもの
過体重を増やさない



生殖可能年齢にある
女性の貧血を
50%減らす



生後6か月間の
完全母乳育児の割合を
50%以上に



出生時の
低体重を
30%減らす



子どもの消耗症の
割合を5%未満に
減少・維持する

出典: WHO

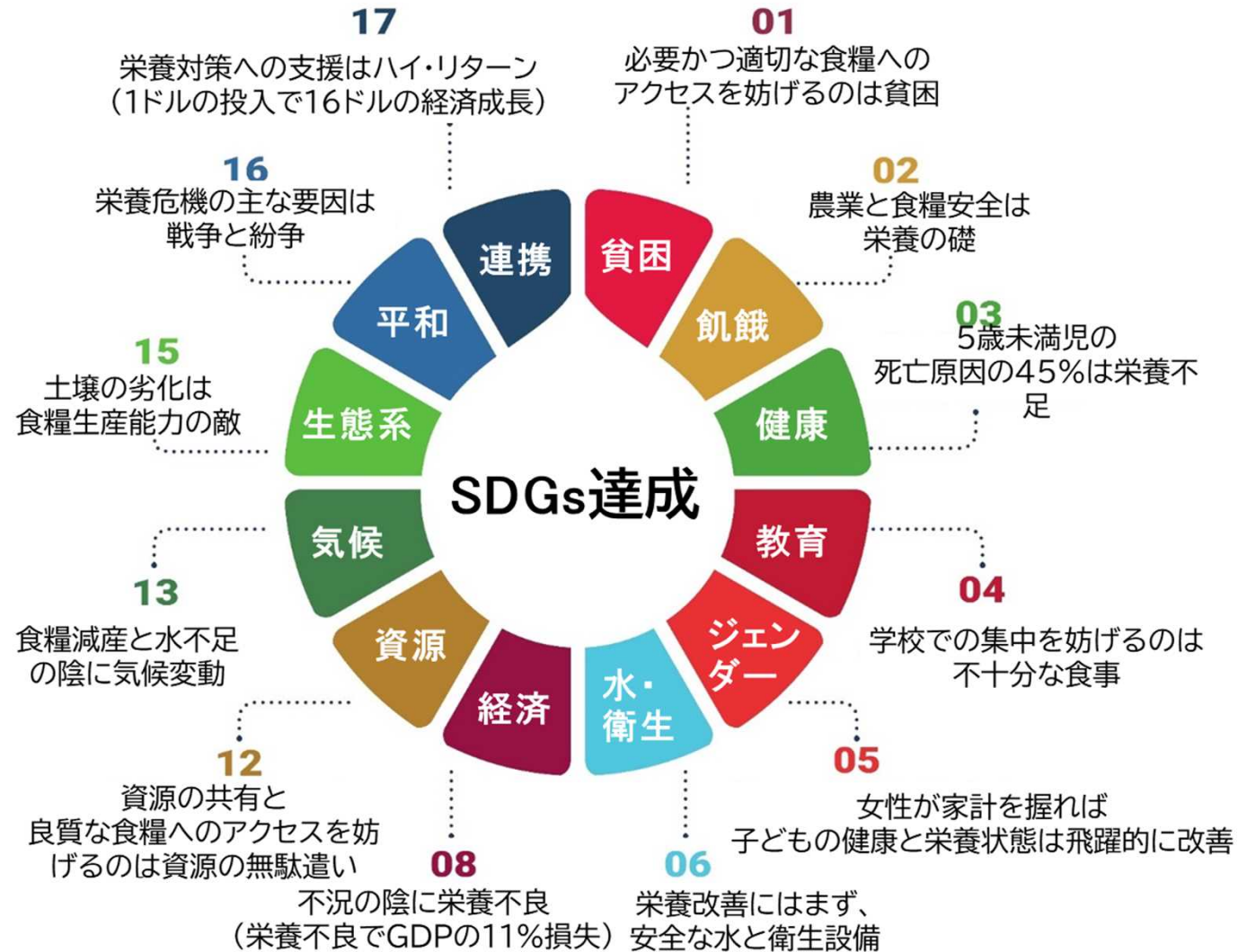
栄養に関する行動の10年 <国連総会> 2016年

栄養に関する国際的な行動を集結し、前進させることを目的にした決議。

2020年は国際的な栄養目標の中間評価を行う重要な年

栄養とSDGs(持続可能な開発目標)

栄養改善の取組は、持続可能な開発目標(SDGs)の17ゴールのうち、少なくとも12ゴールの達成に貢献



世界の栄養課題

栄養不良の多様化

1. 飢餓の絶対数の増加
(政情不安、人口増)
5歳未満児の栄養阻害: 1.5億人
2. 人生最初の1,000日
(低栄養、知能、生産性)
3. 過栄養: 二重負荷
(肥満、栄養不良)
成人の肥満: 6.8億人
4. 生活習慣病
(疾病、医療費)
5. 高齢化(フレイル、QoL)

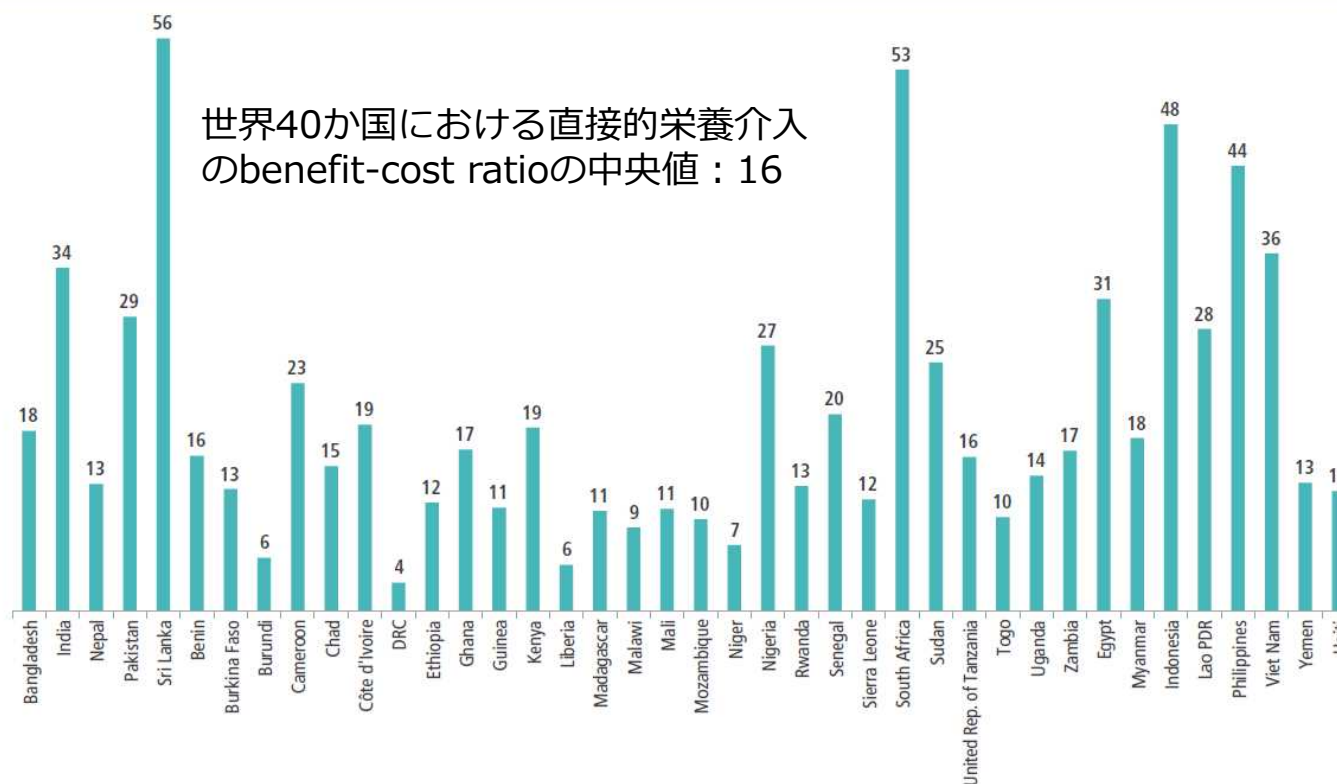
食環境・フードシステム

1. 食料供給能力
(人口100億、生産システム)
2. 気候変動
(生育環境の変化、災害)
3. 農業・畜産・水産業
(環境負荷、持続性、雇用)
4. 食産業・通商
(現地産業、VC、輸出入)
5. 食文化

栄養への投資の費用対効果

栄養への投資は費用対効果に優れる(1ドルの投資で16ドルのリターン)

FIGURE 2.1 BENEFIT-COST RATIOS OF SCALING UP NUTRITION-SPECIFIC INTERVENTIONS FOR STUNTING REDUCTION IN SELECTED COUNTRIES



Source: Hoddinott et al. (2013), and additional country estimates made by the authors based on the methodology in Hoddinott et al. (2013).

Note: The benefit-cost ratios are for scaling up the nutrition-specific interventions described in Bhutta et al. (2013a).

(出典) Global Nutrition Report 2014

説明の流れ

1. 栄養分野の国際的な向
2. 東京栄養サミット2020
 - ① 目的とテーマ
 - ② コミットメントとは
3. 民間セクターによるサミットへの貢献
 - ① 栄養課題解決に向けた企業への期待
 - ② コミットメントの方向性(サミットのテーマ別)

栄養サミット(N4G)とは

オリンピック・パラリンピックの機会を利用した、栄養改善に向けた国際的機運を高めるための国際会合。2013年から2度開催。

- 2013年(ロンドン):2012年のロンドン・オリンピックを契機として開催。2013年のロック・アーン(英)G8サミットの機会に栄養サミットを開催。

- イギリス首相, ブラジル大統領, アイルランド首相 (EU議長国), マラウイ大統領他が出席。
- 成果文書「Global Nutrition for Growth Compact」を発出。



- 2016年(リオ):リオ・オリンピックの機会に開催。

- ブラジル保健大臣, イギリス国際開発庁栄養特別大使, WHO事務局長, FAO事務局長他が出席。



東京栄養サミット2020の開催

- 安倍総理は、栄養分野を、人間の安全保障に向けた、また人々の健康(UHC)を支える重要な基礎分野として位置づけ、国際的取組を推進するために、2020年に栄養サミットを東京で開催することを発表。(2017年12月:UHCフォーラム:東京)
- 東京栄養サミット2020は、我が国の栄養に係る経験、日本の食文化等を発信するなどして、世界に貢献する機会にもなる。



開催概要

日程	2020年12月中旬(2日間)
主催	日本政府
場所	東京都内
想定する 会議規模	過去の会合同等又はそれ以上 (首脳級及び閣僚級を含む各国政府ハイレベル, 国際機関, 学術機関, 市民社会, 民間セクター等)
目的	世界の栄養改善の進捗及び課題を確認し, 課題解決に向けた2020年以降のコミットメントを宣言文(コンパクト)にまとめる。
想定される 成果	<ul style="list-style-type: none">・成果文書(ステークホルダーのコミットメントを含む)・我が国の栄養に対する国内外の取組を発信 (国民健康・栄養調査, 学校給食, 栄養士, 食育, 健康経営等)



今後のサミット開催準備

会合企画	プログラム(パネリスト)、サイドイベント企画他
コミットメントのとりまとめ	<ul style="list-style-type: none">・世界のステークホルダー(①国連機関, ②ドナー, ③民間セクター, ④市民社会, ⑤学術機関, ⑥被援助国政府)のコミットメント作成を働きかける。・我が国のコミットメントの検討
進捗確認 (アドバイザリーグループ)	<ul style="list-style-type: none">・アドバイザリーグループ設置(6つのステークホルダー及び5つのワーキンググループの代表により構成)・目的は、成果文書作成及びコミットメント作成働きかけ。・日本政府のもと電話会議等を通じて進捗状況を共有。・関連会合との連携(2021年国連フードシステムサミット)

サミットで何を議論するのか

サミットでは、栄養課題解決に向けた、効果的な施策や行動を明らかにします。

その準備として、昨年、栄養分野の国際的専門家と幅広いコンサルテーションを行い、今次サミットで議論すべき5つのテーマを抽出し、それぞれのテーマに関する課題と今後の取組の方向性を、「ビジョン&ロードマップ」としてまとめました。

1. 健康：栄養のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）への統合
2. 食：健康的で持続可能なフード・システムの構築
3. 強靱性：脆弱な状況下における栄養不良対策
4. 説明責任：データに基づくモニタリング
5. 財政：栄養改善のための財源確保



サミットの成果は何か(コミットメントとは)

世界の栄養改善を実現するために、実効性のあるサミットにする必要がある。そのためには、世界の栄養の関係者(企業を含む)が、一貫した方向性で臨みそれぞれが、今後何を実践するのかを、明らかにすることが重要。その方策として、誓約(コミットメント)をSMART(※)にまとめ、サミットで発言し、成果文書に記載し、その後、進捗確認していく。

コミットメントのイメージ:

政府: ○○年までに5歳未満児の発育阻害の割合を50パーセント削減する

企業: ○○年までに栄養に配慮した製品の価格を30パーセント下げる

NGO: 栄養価の高い作物の生産支援の現場を50か所増やす

※SMARTな誓約とは

Specific 具体的
Measurable 測定可能
Achievable 達成可能
Relevant 適切性
Time-bound 達成期限